

ツマベニチョウだより 第 27 号

宮崎市の南端にツマベニチョウが産卵して蛹になりました

宮崎市最南端の内海大園地区のオートキャンプ場（オーシャンヒル有限会社）に6月中旬に植えてもらったギョボクの1本に、ツマベニチョウの4齢幼虫が1頭付いているのを7月22日に発見しました。さらにその翌日、別な場所のギョボクに2齢幼虫1頭が付いているのを落合和夫氏と一緒に確認しました。ここは鵜戸神宮から直線距離で約8キロ余り（国道220号線では15キロ500㍍）離れており、これまでの北限であった潮小学校からは直線距離で約3キロ（国道220号線では5キロ800㍍）離れています。

4齢幼虫は7月28日に蛹になりましたが、2齢の方はいなくなっていました。蛹の方も次第にくろずんで来て8月6日に死んでいることが分かりました。しかし8月15日に1ヶ、8日と23日に別の木に各1ヶ卵が見つかり目下観察を続けてもらっています。

小学3年生の児童がツマベニチョウを飼育観察しました

7月5日の夜「ツマベニチョウの卵を3年生の息子がもらったがどのように飼育すればよいですか」と電話がありました。そこで翌日拙宅に親子で来てもらい、タッパーで育てることなどを説明し、参考書として溝口先生の『ツマベニチョウの世界』を贈呈しました。学習活動の一環にもなると「大淀川学習館」の金丸先生のご協力をお願いしたところ快くご指導いただき、7月25日に無事羽化した旨の電話がありました。そして羽化が午前6時頃であったので、あの劇的な変身の瞬間を親子で観察出来て嬉しかったとお礼を言われました。この児童は宮崎大学附属小学校3年の林恵佑君で、親戚の甲斐克則さん方のギョボクに産みつけられた卵をもらわれたのだそうです。甲斐さんは今から5年前にギョボクの苗を拙宅まで取りに来て下さった日南市宮浦の元「木の会会員」でした。

潮小学でもツマベニチョウを飼育観察中です

潮小学校の中野のぞみさんほか7名の3～4年生が、各自でタッパーに4頭ずつのツマベニチョウの幼虫を飼育、観察しています。順調にゆけば9月はじめには羽化するものと思われる。これは「子供会」の取り組みですので心強い限りです。

オーシャンヒルの温室を「蝶の館」にしてみました

オーシャンヒル有限会社(服部富太郎社長)の亜熱帯植物用の温室に網を張り、蝶が飼育、観察出来るようにして「蝶の館」と名づけられました。この温室は高さが10、7㍍、広さが100平方㍍で蝶の館にぴったりです。現在100頭のツマベニチョウを放って観察中とのことですが産卵が相次ぎ、幼虫も続々生まれて順調に生育している由です。

日南海岸各地におけるツマベニチョウの状況は次のとおりです。

県総合農試亜熱帯作物支場(南郷町)

6月26日に孵化した約50頭の幼虫が7月22日から羽化しはじめ、7月31日に終了した。これらの蝶を亜熱帯植物用の温室トロピカルドーム(高さ17m、広さ845平方m)に放ち、来園のお客さんたちに喜んでもらっているとのことです。

猪崎鼻公園の飼育観察舎(日南市)

2回やって来た台風のため今年は大きく出遅れました。現在蛹が10頭と3齢から終齢の幼虫約100頭を飼育観察舎で飼育中です。来月中旬から一般の方々の観察会を予定しているとのことです。

サンメッセ日南の蝶の楽園(日南市)

「蝶の楽園」に他の蝶と一緒にツマベニチョウもよく来ていて産卵するのが見られ、楽園以外でも「モアイ広場」のそばのギョボクに産卵している。会社としても食堂にある「蝶の部屋」用に幼虫を飼育して羽化したらそこに放っているとのことです。

鵜戸中学校(日南市)

ギョボクに産みつけられた卵36ヶを5月7日にケースに入れて飼育した。それが羽化して産卵した30ヶを飼育したところ7月末に羽化した。その後夏休みのため飼育、観察などは行っていないがこのように確実に世代を重ねているようだとのことです。

大海ドライブイン(日南市)

5月中旬に、裏の畑のギョボクで羽化したツマベニチョウの卵から孵化した幼虫20頭を、目下社長宅で飼育中とのことです。

潮小学校(日南市)

児童たちがツマベニチョウの飼育観察を始めたので、担任の増田先生が「観察記録帖」を作成されて学習効果があがるように措置して下さいました。「ギョボクの森」には蝶が度々飛来して産卵しており、現在室内のケースで5頭を飼育中とのことです。

オーシャンヒルのオートキャンプ場(宮崎市)

「蝶の館」内で約100頭のツマベニチョウを飼育中です。その中には蛹10頭、前蛹10頭、終齢幼虫30頭がいます。また野外のギョボクに産卵したのから孵化した幼虫も3齢になったとのことです。なおここでは近くツマベニチョウを中心にしたイベントも計画中と伺いました。

平成15年8月25日

海老原秀夫